

議員派遣報告書

第20回全国市議会議長会研究フォーラム in 札幌

期 間： 令和7年8月27日（水）～28日（木）

場 所： 札幌文化芸術劇場 hitaru

テー マ： 地方議会議員のなり手不足問題の解決に向けて

派遣議員： 福島正美、大石ふみお、大沢純一、瀬 順弘

1. 目的

全国の市区議会議員の共通する政策課題等についての情報や意見の交換を行い、地方分権の時代に即した議会機能の充実と活力に満ちた地域づくりに資するためフォーラムに議員を派遣した。

2. フォーラム概要

（1）プログラム

●第1日目 8月27日（水） 13:00～16:50

13:00 開会式

13:20 基調講演「主権を預かる誇りと責任」 伊吹文明元衆議院議長

14:40 パネルディスカッション

「多様な人材の参画促進の観点から地方議会議員のなり手不足問題を考える」

コーディネーター：辻 陽（近畿大学法学部教授）

パネリスト：牧原 出（東京大学教授）

白石 洋一（読売新聞東京本社政治部次長）

山下 節子（山口県宇部市議会議長）

長内 直也（北海道札幌市議会議長）

16:40 次期開催地挨拶

●第2日目 8月28日（木） 9:00～11:20

09:00 課題討議「地方議会議員のなり手不足問題の取組報告」

コーディネーター：牧瀬 稔（関東学院大学法学部地域創生学科教授）

パネリスト：今井 康善（長野県岡谷市議会前議長）

平神 純子（鹿児島県南さつま市議会議員）

中野 進（石川県白山市議会議長）

11:00 閉会式

(2) パネルディスカッション

はじめにコーディネーターの辻氏より、テーマの解説として、地方議会・議員に対する無関心、若しくは不信が広がり、地方議員選挙において投票率が低下し、無投票当選者や定員割れが顕著に増加している状況が述べられた。このなり手不足に関して、議員の多様性や住民代表性の確保、議員定数・議員報酬のあり方、地方議会の役割や議員の職務等の明確化の3つの論点が挙げられ、地方議会の概況、令和5年地方自治法改正の内容などから、この問題の考えるポイントが示された。

パネリストからの発言では、牧原氏からは「地方制度調査会」「持続可能な地方行財政のあり方に関する研究会」での議論を踏まえ、キーワードとして人口減への対処と、技術革新へのリテラシーが述べられ、オンライン議会・自治体DXにも言及された。

白石氏は、読売新聞の全国世論調査から有権者の意識を探るなか、報酬額や介護育児との両立についてなどの課題解決の必要性が述べられた。

山下議長からは、議会にも政策提言能力を備えることが必要で、優秀な人材が議員となってくれるよう環境整備が必要との指摘があり、そのため議会の役割や議員の仕事への関心を高めること、多様な人材が立候補しやすい環境づくりが重要として、そのための取り組みの紹介などがあった。

長内議長からは、なり手不足対策として主権者教育に取り組んでおり、小中学生の議場見学や市議会キッズページの開設、区役所との連携などが紹介された。

(3) 課題討議

コーディネーターの牧瀬氏より、若者や女性、会社員など多様な人材の地方議会への参画を促し、議会を活性化することが喫緊との課題提起があった。そして、なり手不足問題への具体的取り組み内容、取り組みの成果と課題、解決に向けた提言を討議したいと論点が提示された。

今井善議長から岡谷市の取り組みとして、議会報告会の開催、採決態度の公表、委員会オンライン開催のための条例改正などのこれまでの議会改革の取り組み状況が報告された。さらに、現在取り組んでいる議会情報のオープン化、住民参画、議会機能の強化と合わせて、なり手不足対策への具体的取り組みとして「議員のなり手不足に向き合うシンポジウム」の開催、市民との対話集会の実施状況が紹介された。

平神議員からは、女性議員増に向けた活動状況や思いが述べられた。

中野議長は、令和3年の選挙でなり手不足が顕在化し、改選後に「未来につなぐ議員の在り方検証委員会」の設置、議員討論会の開催、「みんなでギカイを考えるキカイ」実行委員会を設置したとの紹介があった。検証委員会や討論会では具体的な検証・検討内容を設定し議論を重ねてきた報告があり、シンポジウムにおいては開催前と開催後にアンケート調査を実施して課題を明らかとした様子が伺えた。

3. 所感

無投票当選者が増加しているデータなどから、地方議員のなり手不足の課題が顕在化していることを痛感した。なり手不足の状況は地域によって差があるものの、その根底には議会・議員への無関心や不信があるとの指摘は重要であり、具体的な取り組みをしている議会ではその点を重視した対策を実施していることがわかった。議会改革の取り組みで市民に開かれた議会を目指すことと、なり手不足対策は通じるところも多く、立川市議会としても引き続き議会改革の取り組みをより広い観点で進めていく必要があると感じた。

以上

